

いちりん通信

No.31

歩きたいけど、リハビリは嫌！



【症例報告】

港区 S様 91歳 女性 変形性膝関節症 週2回治療

「私、もっと歩けるようになりたいんですけど、リハビリは嫌なんです」

そう、おっしゃるSさん。リハビリは「大変」「億劫」「つらい」「痛い」…そんなマイナスなイメージがつかまとうようです。ご家族は「もっとリハビリをしてほしいんですけど…」と困り顔。

その1 毎回、目的を明確に伝える

Sさんは「今日は暑いから」「今日は痛いから」といろいろな理由でまずは断りを入れてきます。しかし、そのお気持ちを一度受けとめた上で、「でも、あのコンビニまでご自分で歩いて行きたいんですよ？」と、リハビリの目的を明確に伝えると、Sさんは「そうね」と応じて下さいます。そして、いったん歩き出したSさんは、何事も無かったかのように歩行器を器用に使いこなし、着実に歩を進めます。

その2 勝算があるかどうか？

Sさんは、膝に大きな変形をきたし、可動域がかなり制限されています。しかし、元来の運動神経の良さと、比較的強い脚力（筋力）を持っています。

私たちは、Sさんの身体能力を診立て、意欲、住環境、家族関係を考慮しながら、勝算（可能性）とリスクとを明確にします。その上で、両者を秤にかけて、どこまで勧めるかを決定します。

「可能性をイメージできるか？」…これが施術者の一番のポイントです。

その3 リスクを下げる努力

すべての治療にはリスクが伴います。ましてや積極的リハビリは尚更です。そのリスクを下げるのは、施術者の技術と冷静な診立て、そして患者様・ご家族の強い意欲です。これらすべてが噛み合っ初めて、目的は実現されるのです。

私たちは、リスクを避けるだけではなく、少しでもリスクを下げられるよう、日々努力しています。

(F・K)

